事例　概要シート　　事例研究　説明事例

相談者氏名	所属　※該当に○
吉田　薫	①地域包括支援センター　②居宅介護支援事業所 ③その他（　　）

1．あなたが感じている自分自身の支援の課題や苦手さ（事例選定の上での留意点①）

コミュニケーションがとりにくい家族への対応が難しいと感じる。

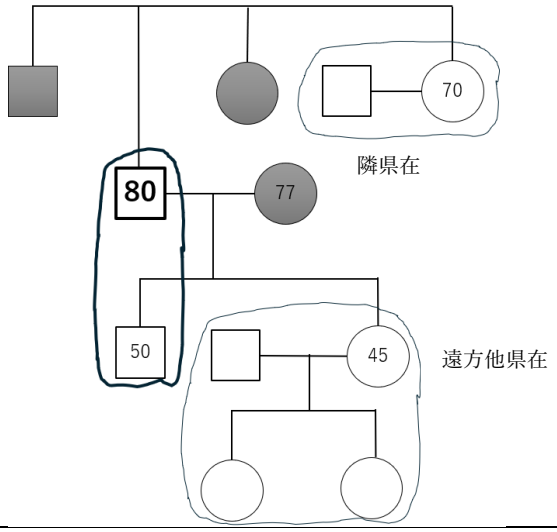
2．事例の概要

利用者名 ※アルファベット表記	Bさん	年齢	80　歳	性別	男
あなたの関わりのきっかけ	9 か月前に要介護認定を受けたがサービス利用に至らず、最近になって近所の人からの相談で、包括がかかわりはじめた。息子からの同意もあり、担当 CM となり介護保険サービスを利用することを前提に、包括職員とともに訪問を開始した。			援助期間	0年　1か月

家族の状況

家族構成図　※同居者を囲む。それぞれ年齢、職業などを記入。

長男と二人暮らし。
長男は地元メーカーの工場に派遣社員として勤務。婚姻歴なし。妻は 77 歳で 10 ヵ月前に入浴中倒れているところを B さんが発見したが死亡。長女は遠方他県で家族と暮らし、保育士。兄弟とは交流なし。
B さん：アルツハイマー・高血圧・座骨神経痛



利用者の状況

要介護度		要介護１（９か月前）		
障害自立度		J1	認知症自立度	Ⅱb
身体障害認定		級	知的障害認定	級
サービス利用				
日常生活動作	移動	自立	入浴	おおむね自立
	食事	おおむね自立	更衣	一部介助
	排泄	一部介助 尿臭あり	その他	
	家事	部屋の片づけをやろうとしているが片付かない。	コミュニケーション	短期記憶低下。数分前のことは忘れる。
経済状況		問題なし（年金・貯蓄あり）		
住居状況		持ち家（一軒家）		

利用者や家族の要望・困りごと

利用者本人の要望・困りごと	特に困っていることはないと言っている。	家族や関係者の要望・困りごと	息子：父親は体は丈夫なのに家事をしないのでイライラする。自分のことは自分でやってほしい。

本資料は両面で１枚に収まるよう、整理して記載してください。

３　事例への支援において，達成できていないこと，達成したいこと（利用者や家族の生活上の目標）

長男と今後のことについて話そうとしたが、長男は「自分がやるべきことはするが、全面的に父親の面倒をみることはできない」、「でも介護サービス、特に訪問介護は利用したくない」と言い、今後のことについて相談しても「わからない、なるようになる」と、取り付く島もない。B さんの生活状況が安定することが目標であり、そのためにも長男と調整する必要があるが、聞いてもらえない。認知症への理解もあまりない。

４　これまでの支援の概要（課題が生じた場面についての主要な出来事や対応）

9 か月前

妻他界後、息子の判断で要介護申請。ごく軽度のアルツハイマー型認知症との診断で、要介護 1 であったが、特に使いたいサービスはないとのことで、サービスは使わないままとなった。

1 ヵ月前

B さんが住む町の自治会の役員から地域包括支援センターに「B さんが心配」と相談があった。

・ 隣近所の人の話では、妻の他界後、B さんを家の外で見かけることはほとんどなくなく、時折、夜中に長男とけんかしている様子なので心配とのことだった。
・ 包括職員が B さん宅を訪問したところ、玄関から居間までかなり散らかっており、足の踏み場がない状態であった。B さんの話はあまり要領を得ず、10 分ほど話していると「何しに来たんだ？」「どこから来たんだ？」と繰り返す。15 分ほど話を聞いていると、B さんが不機嫌になってきたため面談を打ち切った。

2 週間前

長男在宅時に CM も包括職員と一緒に訪問し、長男からきいた内容は以下の通り。

① B さんとは長男が中学生のころから折り合いが悪く、長男は 20 歳の時に実家を出たが、40 歳のときに勤めていた会社が倒産してしまい、以降派遣社員となり親と同居してきた。
② 長男は、昼から夜中までの勤務、休日はストレス発散のためパチンコやサウナに出かけてしまうことが多いので、B さんが昼間どのように過ごしているのかよくわからない。
③ 坐骨神経痛については、かなり以前から腰が痛いと言って、病院にかかっていたときもあった。今でも腰が痛いとよく言っている。妻が亡なったころから物忘れがひどくなり、アルツハイマー型認知症、高血圧の診断および要介護 1 の認定を受けた。 B さんは 10 分程度前のことは忘れてしまい、込み入った話は理解が難しい。トイレを汚してもそれに気づかない、ごみ捨てを頼んであっても忘れる、お風呂のお湯を沸かしたことを忘れてしまうということがあった。
④ B さんの妻が存命中は、妻が家事全部を行っていた。亡くなった後、長男は、自分の部屋と台所・浴室など自分が使う範囲は片付け・掃除をしており、洗濯も自分の分はしているということであった。しかし、体が元気な父親が、自分が使っている部屋の掃除や自分の洗濯を何もやらないことに長男は怒りがわき、ときどき大喧嘩するという。
⑤ 食事は、長男がコンビニや深夜営業のスーパーで多めに総菜や菓子を買い、冷蔵庫に入れているが、最近は全部食べているときと全く手をつけないときがある。 B さんの身体状況は、特に問題ないのではないかと考えているということであった。

５　この事例への支援で自分自身の支援やコミュニーション上の課題と感じていること（１をより具体的に）

長男はあまり話をしてくれず、なげやりな話し方をするため、どのように声をかけていけばよいのかわからない。息子に介護サービスについて提案をしても、受け入れてもらうことができず、自分も言葉につまってしまう。これからの意向を聞き出し、方針を決めていきたいがうまくいかない。まずはコミュニケーションをうまく取りたい。